

ドイツ連邦食料・農業省プレス公告
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 19

NO 19

2016・5・14

1 連邦農業大臣：EU一家畜保護プラットフォームの設立を求める
ーデンマーク、オランダ、スウェーデン、ドイツが共同で提案ー

ドイツを含めた EU 一同盟内の 4 ケ国が、情報基盤を通じたヨーロッパレベルでの、家畜保護のための対話強化を提案した。機能的な情報交流は、共同活動も家畜保護水準の改善も、基本的な前提条件である。そのため、4 つの加盟国はヨーロッパ委員会に対し、既に今ある家畜の栄養、運動そして健康に関する EU ーアクションプラットフォーム（訳注・数多くのネットワークを結びつけ調整機能を有する基盤）を手本に、家畜保護プラットフォーム設立の声明書を提出した。

連邦農業大臣シュミットは、2016 年 1 月 15 日、ブリュッセルで農業と漁業に関する EU ー理事会会議に、共同で作成した文書を提案した。EU ー加盟国の多数が、EU 一家畜保護プラットフォームの設立と、そして同時に対話の改善に合意した。2016 年 5 月 17 日に EU ー農業理事会の会議で、新たに協議される。そのような EU 一家畜保護プラットフォームは、一方では個々の加盟国または他の関係者の家畜保護のイニシアチブを考慮し、経営の交流を容易に可能とする。

他方、そのようなプラットフォームは、EU ー法規定の実行と取り締まりに関する情報交換を改善し、そして実践における統一した、透明な実行を達成することに役立つ。さらに EU 一家畜保護プラットフォームは、特に次の分野において、EU 一同盟内の家畜保護の発展に、積極的な貢献を果たすことができる。

- ◇ 家畜保護のために社会の様々な分野との行動の調整
- ◇ 関心ある組織代表者との連携を容易にすること

- ◇ 加盟国内における優れた専門的実践事例の交換
- ◇ 研究領域での知見と情報の伝達を含めた連携の強化

ヨーロッパ同盟の市民について、家畜保護は極めて重要である。この情報は、2016年3月にEU一同盟の委託で実施された、アンケート「家畜保護のユーロバロメーター」から得られたものである。2014年末にオランダ、デンマークそしてドイツが、家畜保護を共同で行動することに合意した。2015年4月にスウェーデンが、我々の行動に加わった。これらの国は、自らの共同活動開始以来、家畜保護のための4つの共同声明を、ヨーロッパ委員会に提起している。

2 国連一持続性目標実践のためのドイツ連邦国際食料一農業者会議

国連は2015年に、持続的な発展のための2030アジェンダでもって、「世界持続性目標（SDGs）」に合意した。この目標を国内と国際的にどう実践するか？ そのため、2016年5月2日から4日までベルリンで、専門家会議が開催された。連邦食料・農業省と高度持続可能性研究所（IASS）は、政治、経済、民間団体、科学からの代表者300人以上が、「発展持続性目標」実践のための提案を作成するために、招かれた。これは、ドイツにおける世界持続性目標実践のための、国際的に開催された最初の催しである。

自然資源の持続的な管理と保護が、ドイツにおける「世界持続性目標」スタートの焦点となっている。”誰も戻ることはできない。我々は、貧困と飢餓を受入れることはない。我々は、持続的に世界の食料を、確保しなければならない。”これは、連邦大臣シュミットが会議の幕開けで述べたものである。農業の中核的な課題は、食料確保を放棄しないことである。さらに農林業は、アジェンダ2030の多くの高度な目標を実践することに、決定的に貢献する。

”食料の確保、気象の保護、資源節約—我々は、2030アジェンダのこの大きな挑戦を、受け入れねばならない”とシュミットは述べ、そして同時に国境を越えた共同活動の必要性を強調した。単独で「世界持続性目標」を達成できる国はない。この目標は、各国の共同のみで達成され得る。アジェンダ2030の現実化される中心的な手段は、ベルリンでの会議で道が開かれる。

背景

持続性のテーマは、ベルリンでのアジェンダ 2030 で、しっかりと道が開かれた。ドイツは、国内持続性戦略を、アジェンダ 2030 の意味において、さらに発展させた。その際、連邦省食料・農業省は、全体で 17 の持続性目標でもって、食料を確保しそしてより良く栄養を満たして飢餓を終わらせる。そのため、持続的な農業を奨励する。2016 年 5 月 31 日の持続的発展のための委員会年次会議に際して、連邦首相アンゲラ メルケルが、前進のための報告の基本的特徴を紹介した。

世界共同体は、「将来アジェンダ」でもって 17 の野心的な「世界持続性目標」を設定し、そして特に 1 つに目を向ける：次世代のための地球を守ること、そして依然として常に飢餓と貧困の中で生きている人々の生活を、改善すること。地球の持続的発展の世界合意から、ドイツのような発展国についても、明確な役割を迫及する。全てのアジェンダ 2030 の展望から発展の道を注視し、そして適応させねばならない。

ドイツは、大臣シュミットの言葉によって、国内的にも国際的にも責任を担っている。”我々は、他の団体と共同で 2016 年 7 月に、ニューヨークでの「ハイレベル政治フォーラム」の分野において、2030 実践を前進させることを、各州に報告する”と、シュミットは予告した。ドイツにおけるこの会議は、このための幕開けである。彼の開会挨拶の中で、アジェンダ 2030 の課題・逃亡の原因との闘いを始め、土壌、水そして農業原料といった資源の持続的な取り扱いを通じて、シュミットは一連の挑戦を描いている。

個々の消費者が持続性の目標実践に、どのような貢献を果たすことができるか？シュミットによれば、分野を越えたそして全体的な生産チェーンを越えて、持続性を追求する。人道的な理由から、気象についての関心から、連邦農業省の任務は、持続性フォーラムの開催である。つまり、「持続性カカオフォーラム」と「持続性パームオイル」—その際の立会人である。その上、大臣は消費者の責任についてもアピールした。”各個人が店のレジスターで、どのような食料が売られ、どこでどのようにして生産されたかについて、関心をもつべきである。このことは、生産条件を世界的に変えるより強いテコとなる。”

3 ドイツーウクライナの農業分野における共同活動の強化

ブレーザー政務次官は、ウクライナの農業分野における2つの共同プロジェクトを、スタートさせた。ブレーザーは、ウクライナの農業大臣 Taras Kutowy と、2016年5月17日と18日にキエフでの会談の際に、2つのドイツーウクライナ共同プロジェクトを開始する。このプロジェクト「農業貿易」は、EUーウクライナ自由貿易協定の領域における、農業貿易問題のついてドイツとウクライナの企業が協議する。

近代的そして持続的な農業生産方式に関して、実践的な知識と技術的熟練は、ドイツーウクライナ農業展示ー継続教育センターにおいて、伝達される。このスタートに関連してブレーザーは説明した：“農業は依然として、ウクライナ経済の中で重要な領域である。この2つのプロジェクトでもって、農業分野において今あるドイツーウクライナの共同活動が、強化される。その際、連邦農業大臣は、農業の大きな可能性を汲みつくすことで、ウクライナをさらに支援する。” 効率的で国際的に競争力をもった農業分野は、ウクライナの経済的安定に寄与する。強い農業は、特に就業の場の創設によって、重要な社会的機能を担い、そしてウクライナの農村地域における、生活の質的向上のために貢献する。”

背景

連邦食料・農業省はウクライナにおいて、現在3つの双方向的な共同活動に参画している。農業政策対話（APD）は、農業改革のためのウクライナの農業政策上の決定担当者に、ドイツ国内及び国際的な体験を配慮しながら、助言する。ADPのプロジェクト財源は2015年以来、ウクライナ側からの要請によって、増額されている。ドイツーウクライナ農業デモンストレーションー継続教育センター（ADFZ）の提案は、専門ー指導部並びにウクライナの農業分野の職業学校生徒に向けられている。農業貿易ープロジェクトの領域において、ウクライナの農業分野、特にウクライナ農業者の中に、「支援の机」が設立された。これは、EUとウクライナの間での農業貿易問題を伴った、ドイツーウクライナ企業に対して支援する。

4 イプスハイム基礎学校での栄養免許証

イプスハイム基礎学校は、金曜日（5月6日）に連邦食料・農業大臣シュミットの訪問を喜んだ。大臣は、栄養教育の1つ「栄養免許証」を、校長のジーナ ハイニックと、郡の農村女性レナーテ イクスマイゼーに手渡した。”私は、この基礎学校が授業提供の中に栄養免許証を組み入れ、そして栄養教育のテーマへの関心を、はっきり示していることを喜んでいる”と、大臣が述べた。

私は連邦食料大臣として、保育園と学校における栄養教育の強化に努めている。子供達は、健全な栄養の初歩的な知識を学ぶべきである。生まれと学校タイプに左右されずに。食料・農林業情報一分析サービス協会（a i d）から、情報提供されて発展している栄養免許証でもって、2時間1こまの授業時間の6単位の中で、食料を感覚的に知覚すること、調理すること、味わうことを学ぶ。

教師は、第3学年と第4学年の実践的に試す授業基礎を、自主的に実践できる。その際、支援するのは農村女性である。

子供達は、学級室で小さな料理の調理方法を学ぶ。そして重要な調理技術とともに食卓を準備し、皆んなと食べる。授業プロジェクトは、台所における自己責任で実習する気を起こさせ、そして筆記による実践的なテストでもって修了する。情報媒体は、教師に全ての必要な内容を、基礎的な資料でもって提供する：実践のための背景、コピー手本、両親への手紙、試験問題、アンケートそして子供達のための栄養免許証。

栄養免許証は、成果の歴史である。約78万人の基礎学校生徒が、既にこの免許証を取得している。これら資料に対する学校の要請が、高まっている。シュミットは、「盛り立てよう！ 保育所と学校で良い食事のために」のキャンペーンの中で、年度始めに提供している無料の栄養免許証 1,100 セットを送った。

2016・5・14 訳

青森中央学院大学

中川 一徹